

## 予防接種について 1

※ 予防接種の分類は、平成28年10月1日現在のものです。

12-②

1 予防接種の種類	2 どんな病気？	3 ワクチンの効果は？	ワクチンの種類 百型	4 受け方 計画は、かかりつけ医と相談しましょう。	誕生日 H 年	月齢ごとの日付をいれましょう												定期の推奨接種開始時期 接種可能な期間（並びぬけている接種可能期間）											
						1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳							
インフルエンザ菌b型 (ヒフ) 感染症	ヒフ感染症は、中耳炎や気管支炎、髄膜炎のような重い病気をおこす。ヒフ感染症による髄膜炎は、5歳未満では、10万人に約7～8人、年間で約400人が発症し、そのうち、約11%が予後不良とされている。生後4か月～1歳までの乳児が過半数を占める。	歐米では、予防接種開始後、重症感染症は劇的に減少。ヒフの罹り方は、3歳以上で急速に上昇する。	不活性	接種期間：生後2か月～5歳の誕生日前日まで  接種開始が生後2か月～7か月に至るまでの場合 27～56日（医療が必要となる場合は、20日以上）までの間隔をあけて生後12か月に至るまでに、3回接種。3回目終了後、7か月～13か月の期間をあけて1回追加。  初回2回目および初回3回目が生後12か月に至るまでに終了せず、1歳以降に追加接種を行なう場合は、初回1回または、2回目終了後27日医師が必要と認める場合は20日）以上あけて接種。	誕生日 H 年	1 ヶ月	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1 歳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
						1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
						1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
小児の 肺炎球菌感染症 (13価ワクチン)	肺炎球菌は、子どもの多くが鼻の奥に持っている。ときに中耳炎や重い髄膜炎なども起こります。肺炎球菌が原因の化膿性髄膜炎は、5歳未満では、10万人に約2.5～3人、年間で150人前後が発症しているとされています。死亡率や後遺症は、ヒフ感染症による髄膜炎より高く、約21%が予後不良。	予防接種開始後、多くの国から、細菌性髄膜炎が激減したという報告がある。	不活性	接種期間：生後2か月～5歳の誕生日前日まで  接種開始が生後2か月～7か月に至るまでの場合 27日以上あけて生後2か月に至るまで（標準的には、生後12か月に至るまで）に3回接種。3回目終了後、60日以上（標準的には1歳～1歳3か月）あけて1回追加。  初回2回目が生後12か月を超えた場合は、3回目の接種は行わない。追加接種はできる。	誕生日 H 年	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	
						1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	
						1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	
						1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	
B型肝炎	B型肝炎ウイルスの感染者は約100万人(100人に1人)とされています。B型肝炎に感染し、慢性肝炎になると長期にわたる治療を要し、最悪の場合肝硬変や肝臓がんなどの命にかかる病気を引き起こす。	接種者の70～90%は抗体を獲得し、効果は数年～10年持続する。	不活性	一般的な感染予防場合 接種期間： 「1歳に至るまでの間にいる者」 1回目から2ヶ月以上あけて2回目を接種、1回目の接種から139日以上あけて3回目を接種する 標準的な接種期間：生後2か月に達した時から生後9か月に至る期間  ※平成28年10月1日から定期となりました。平成28年4月1日生から対象。 ※B型肝炎陽性の妊娠から生まれた乳児として、健康保険の給付によりB型肝炎ワクチンの投与（折合6ml 人乳頭コロブリンを併用）の全部又は一部を受けた場合は、定期の予防接種の対象者になります。	誕生日 H 年	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	
						1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	
ジフテリア 百日咳 破傷風 急性灰白髄炎 (ポリオ)	ジフテリアは、予防接種がはじまり、患者発生は年間0～1人。	予防接種により患者激減。追加接種をすることで10年間抗体持続。	不活性	接種期間： 「1歳：生後2か月～7歳6か月に至るまで 初回1回目から3回目まで20～56日（標準は20～56日）の間隔をあけて生後12か月までに接種。6か月以上（初回終了後12ヶ月～1歳6ヶ月が標準）あけて1回追接。  II期：11歳以上～3歳未満 (標準的な期間は11歳に達した時から12歳に至るまで) 二種混合（ジフテリアと破傷風）各追加接種	誕生日 H 年	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	
						1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	
						1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	
BCG	結核の予防接種。結核菌による空気感染で、肺から入り、肺結核などを起こす。予防接種を受けていない乳児が感染すると、病気の発症はやく、結核性の髄膜炎など重症になりやすい。	追加接種後10年持続、11～12歳頃、追加接種が必要。	生	接種期間：生後12か月に至るまで 生後5か月に達した時～8か月に達するまでの期間が望ましい	誕生日 H 年	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	
						1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	7 ヶ月	8 ヶ月	9 ヶ月	10 ヶ月	11 ヶ月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	

## 予防接種について2

※ 予防接種の分類は、平成28年10月1日現在のものです。

12-③

定期予防接種	1 予防接種の種類	2 どんな病気?	3 ワクチンの効果は?	ワクチンの種類	4 受け方 計画は、かかりつけ医と相談しましょう。	誕生日 H 年	月齢ごとの日付をいれましょう													接種推奨期間					
							1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
							回数	効果的な接種時期と間隔												/	/	/	/	/	/
	麻しん風しん (MR1期)	麻しんは、麻しんウイルスによる感染。免疫力を落とすので、症状が重く、他の感染症にもかかりやすくなる。	接種者の95%は抗体獲得し、長期に持続する。	生	接種期間： Ⅰ期：生後12か月～生後24か月に至るまで 1歳の誕生日を迎えたら早めの接種が望ましい Ⅱ期：5歳～7歳未満のうち、就学前年度に接種	H年	1回	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1					2		
		風しんは、風しんウイルスによる感染。問題なく治ることが多いが、まれに脳症などが起こる。	接種者の95%は抗体獲得し、20年近く持続する。				2回	接種時期： 生後12か月から生後36か月に至るまで 1回目の接種は生後12か月～15か月に至るまで、2回目は、1回目終了後3か月以上（標準は、6か月～12か月まで）あけて接種。												1	2				
	水痘	水痘帯状疱疹ウイルスによっておこる感染力が大変強い病気。発疹と発熱が症状。3度序を越える熱が2～3日続き、体に虫さされのような赤い斑点が出てくる。1日くらいで水ぶくれになり、全身に広がる。強い痛みもある。多くの場合それほど重くならないが重症化することもある。0歳と15歳以上が重症化しやすい。	1回の接種で80～90%は抗体を獲得する。1回の接種により重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。	生	接種時期： 生後12か月から生後36か月に至るまで 1回目の接種は生後12か月～15か月に至るまで、2回目は、1回目終了後3か月以上（標準は、6か月～12か月まで）あけて接種。	H年	2回	3か月以上 (標準は6か月～12か月未満)												1	2				
	日本脳炎	日本脳炎ウイルスに感染すると、うち100人～1000人に1人が脳炎を発症します。脳炎になると、死亡率は20～40%、後遺症を残す場合も多い。最近は年間10人以下の発症。	接種後80%は発症を阻止すると推定。初回2回と追加1回接種で基礎免疫を獲得しておくことが大切。その後も5～10年毎の追加接種が望ましい。	不活化	接種時期： Ⅰ期：生後6か月～7歳半に至る前日まで 初回は、標準は3歳に達したときから4歳未満とするまでに、6日（標準的には6日～28日）以上あけて2回接種。 追加は、初回接種終了後6か月（標準的には概ね1年）以上あけて1回 Ⅱ期：9歳～13歳未満の間に1回	H年	4回	6日以上 (標準は6日～28日) 6か月以上 (標準は1年以上)												1	2	3			
	ロタウイルス	ロタウイルスによる感染症は、5歳までにほとんどの人が感染を受ける。激しい下痢などで、脱水、(けいれん、脳症をおこすこともある。2歳未満だと重症化しやすい。生後6ヶ月頃から患者が急増する。初回接種後に腸重積症のリスクが増加し、乳児期後期に発症頻度が高くなる。そのため、初回接種は、14週と6日までに開始を推奨。	外国では予防接種により、病気が劇的に減少したという報告があります。	生	生後6週間から開始 4週以上の間隔で2回、24週までに完了	H年	1回 2回	どちらか 1種類を選ぶ																	
	おたふくかぜ (ムンブズ)	おたふくかぜウイルスによるもので、両耳またはどちらかの耳下腺がはれてくる。かかっても軽症の場合が多いが、重い合併症を起こすことも多い。無菌性髄膜炎が50人に1人の割合で起こる。1000人に1人の割合で重度の難聴が起こる。	接種者の約90%は抗体を獲得し、効果は10年持続する。1回接種では十分ではなく、2回の接種を推奨。	生	生後6週間から開始 4週以上の間隔で3回、32週までに完了	H年	2回 (推奨)	1歳で1回 就学前年度に2回目の接種を推奨												1		2			
	インフルエンザ	インフルエンザウイルスによっておこる呼吸器の感染症で、初冬から春先に流行する。ほとんどが自然に治るが、肺炎、気管支炎、仮性クーレーブ（声を出す喉頭が炎症をおこしてはれる病気）などの呼吸器の病気や脳炎、脳症を起こして重症化することもある。日本の子どもの脳炎の最大の原因で、毎年200～500人が脳炎になっている。熱が出てから約2日の間に起こりやすくなる。	1～6歳未満の乳幼児には発症を阻止する効果は20～30%。効果は2週間～5か月程度。	不活化	2～4週の間隔で2回接種。 (効果を高めるためには4週で接種する方が望ましい) 接種時期は、流行時期に備え、10月～12月、遅くとも12月中旬に接種完了が望ましい	H年	2回	2～4週の間隔で2回接種。 (効果を高めるためには4週で接種する方が望ましい) 接種時期は、流行時期に備え、10月～12月、遅くとも12月中旬に接種完了が望ましい																	